

2019（平成 31）年 3 月 29 日

独立行政法人

鉄道建設・運輸施設整備支援機構

理事長 北村 隆志 殿

事業評価監視委員会

委員長 家田 仁

九州新幹線（武雄温泉・長崎間）および北陸新幹線（金沢・敦賀間）
の再評価について（意見書）

1. 事業の継続の可否に関する意見

九州新幹線（武雄温泉・長崎間）および北陸新幹線（金沢・敦賀間）は、
事業の継続が妥当と考える。

2. 付帯意見

① 九州新幹線（武雄温泉・長崎間）

九州新幹線（西九州ルート）は、フリーゲージトレインの導入が技術的に
断念されたため、2022 年度の暫定開業時には武雄温泉駅での対面乗換方式と
ならざるを得ないが、事業の整備効果を十分に発揮するためには、新鳥栖・
武雄温泉間の整備のあり方等についてできるかぎり早期に検討がなされるこ
とが望ましい。

② 北陸新幹線（金沢・敦賀間）

北陸新幹線は、北陸地方が東京都市圏と関西都市圏とにつながることによ
って国土政策的な効果を発揮するとともに、東海道新幹線の代替機能を持つ
ことが期待される。このような視点からすると、敦賀・大阪間の整備のあり
方等についてできるかぎり早期に検討がなされることが望ましい。